

4-2. ハイラスト 15 地区管理者インタビュー調査

4-2-1. 管理の内容

■地区管理事務所

- ・地域（ドゥールグ）の決断に従って地区の業務を決定し実施する。

■住区管理者

- ・地区管理者と住民の橋渡しをする。

■管理上の問題

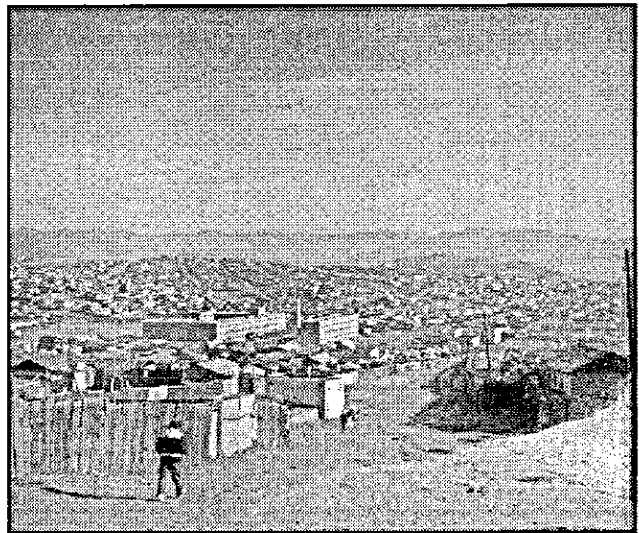
- ・地区自身でもつお金がない。生活困窮者の生活を支援したくともお金がないのできかない。
- ・ゴミ処理の問題が大きい
- ・市内に移動してきた人たちが昔からいた住民の生活を阻害する状況がある。

4-2-2. 地区の生活状況について

1) 都市インフラの整備状況

■上水の確保

- ・地区内の上水販売所は10箇所。北東端に貯水池があり、ここからも販売所に水を配っている。水質は検査の上で飲料に利用している。
- ・営業時間は午前10時から午後8時、午後2時から4時まで休憩。（冬期7時）
- ・個人経営の共同浴場が1箇所ある。午前9時から午後8時まで。地区人口約10000人が利用する。
- ・水の配送車に問題がある。販売所に水が足りないこともある。車の問題もあるが、道路が凍って入れないところがある。南東の傾斜がきついところなどは冬期に車が入ってこれず、販売所が空いていないことのほうが多い。その場合は空いている所まで行って購入する。
- ・個人で井戸を掘っている家もあるが検査の結果、飲料には適していないことがわかり、その他の用途で使用している。



■道路交通

- ・舗装道路は地区中央の一本のみ。中心となる道路は西側で傾斜にそって東西の道路が、東側の地区で、中心となる道路から街路が枝分かれしている。
- ・西側の山の手、東南の地区で傾斜がきつく、自動車での通行が難しい地区がある。特に冬期の路面凍結時の通行が困難である。
- ・車両台数は5年前34台であったが、1999年に84台、2000年に144台にまで増加している。市内でアパートを売り、自動車を持って、ハジャーを買う人も多い。
- ・交通事故は今年学校の前で2件。事故は少ない。
- ・バス停は1箇所。最も遠いところから徒歩で20～30分かかる。
- ・街灯は以前中央舗装道路沿いにあった。来年度、東側地区内に4箇所街灯を設置する計画がある。
- ・東側の中心となる道路の入り口付近の道路が荒れて、通行が困難になっている。

■電気

- ・小学校そばに中心となる変電施設があり、ここから熊手に電線がのびており、これらの電線から各戸に電気につながれている。全世帯に電気を供給している。
- ・一月に2～3回は停電する。復旧までに2、3時間の時もあれば、2、3日かかることもある。

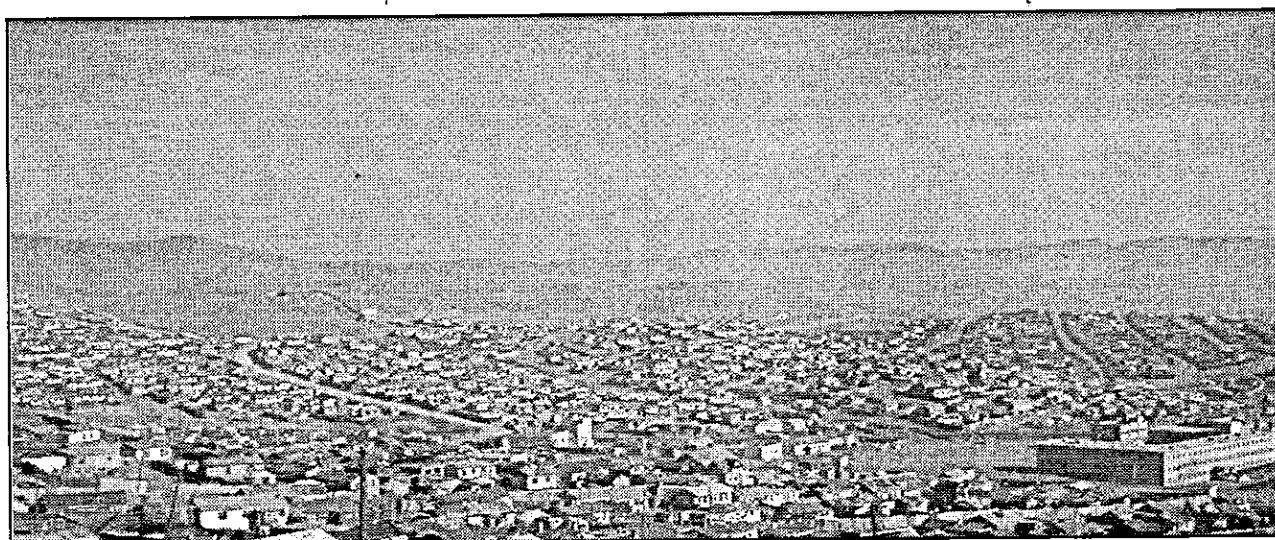
2) 衛生的環境

■ゴミ処理の状況

- ・地区ではゴミ収集の管理はしていない。
- ・個人のゴミ収集車が月に1度の割合で各戸をまわりゴミを回収している。40%の世帯が月に700トゥグそれぞれ収集車にお金を払い、ゴミ収集に回って貰っている。
- ・自然にゴミ収集所になっているところが2箇所ある。それほど量の量ではないので、ゴミ収集のついでにもっていってもらっている。
- ・石炭灰はゴミ収集と同時に処理している。

■環境の汚染

- ・石炭の煤煙は冬期、朝晩にかなり出ている。



3) 保健福祉環境

■医療環境

- ・診療所が1箇所あり、医者5人、看護婦5人が常駐している。診療時間は午前9時から午後6時。入院施設はない。地区内の往診に回っている。車はなく徒歩で回る。
- ・救急の状態には時間内であれば往診で対応する。時間外であれば市内の救急車を呼ぶ。
- ・病院環境は対応できているので特に問題はないと考える。

■生活が困難な児童、世帯

- ・両親のいない子供は12人おり、親戚にあずかってもらっている。片親の子供は34人いる。
- ・生活の困難な児童を預かる施設の必要はある。現在日本のNGOが幼稚園の中に孤児院を設置する計画がある。
- ・生活困窮世帯（月收入18000トッグ以下） 232世帯、500人

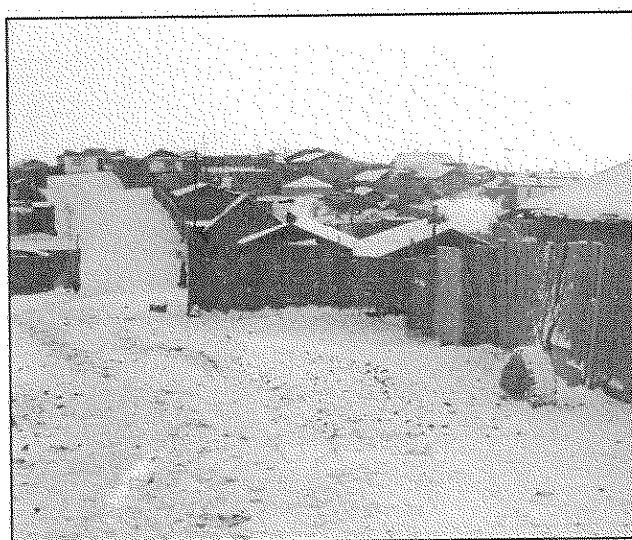
4) 安全な環境

■洪水、災害

- ・2本の河川沿いに洪水の危険はあるが、この5年で大きな洪水はなかった。
- ・河川沿いの居住は認められていないが、実際には居住している。本来は河川から50m離れなければならないが、今は10mまで近付いている。
- ・火災の頻度-年1、2件。原因は電気や石炭の不始末。電線が触れあった火花が原因となるなど外的な要因もある。
- ・洪水、火災等の発生には市内の消防に連絡する。着くまでに1時間はかかり、火災がほぼ終わってから到着することもある。
- ・道路状況が悪いところがあり、迂回して行けないことはないが、消防車、救急車が行きにくい。

■犯罪

- ・泥棒や喧嘩が多い。酔っぱらいは日に5、6人はみかける。
- ・1998年に警察がつくられて犯罪が少なくなった。24時間対応している。去年は34件あったが今年は4件と少なくなった。
- ・市民警察は2箇所に配置。犯罪の起きやすい周辺部に配置している。



5) 利便性

■石炭の確保

- ・石炭の販売は許可制となっている。地区内に石炭の販売所はなく、まとめて買うためには市内にいかなければならない。10kg単位であれば地区内バス停の近くで石炭を買うこともできる。
- ・困窮世帯（月收入18000トッグ以下）の世帯が232世帯あるが、特に生活が困難な世帯に石炭を配っている。去年は46世帯に配付した。

■商業環境

- ・バス停周辺、河川沿い。小学校、幼稚園施設周辺に商店が集まっている。少し離れた場所では地区北東部に1、南西部に1箇所商店がある。

6) 教育環境

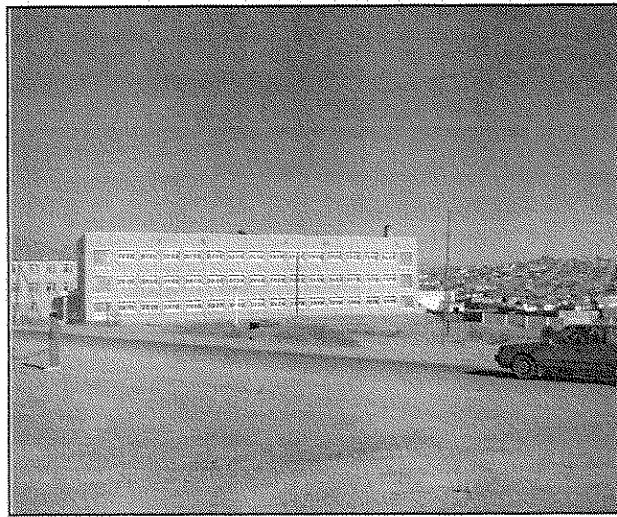
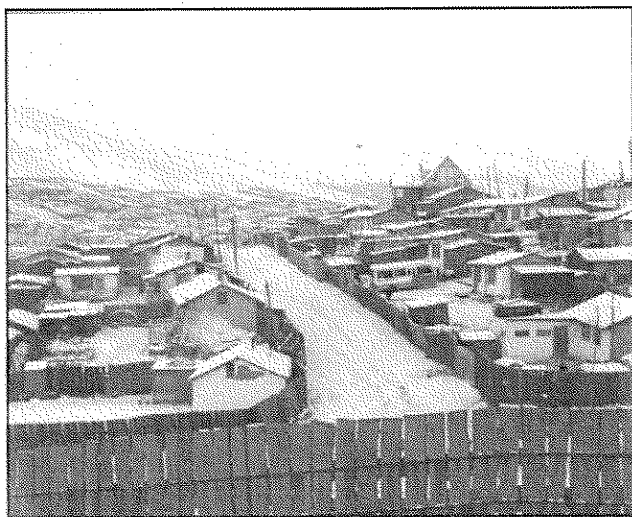
- ・小学校1箇所（内、一校舎をJICAの支援により新設した。）15地区と16地区の子供64クラス 2280人が通っている。全校生徒の40%が15地区の子供になる。地区外にまで通う子供は少ない。
- ・幼稚園2ヶ所、16クラス250人が通う。2歳から7歳まで通う。
- ・学校が新設されたことで問題が少なくなった。

7) 快適性、公園レクリエーション

- ・映画館などの文化的施設がなく、余暇を過ごす場所が地区内に無い。
- ・住民が休養したり、子供たちが自由に遊べるような場所は地区内にはない。

8) コミュニティ

- ・コミュニティの役割としては様々な活動を住民と話し合いの上で決めていきたい。
- ・地区で住民を対象に、学校施設を利用し地区の業務を決定する会議を年に2回（1月、6月）開催しており、地区住民400人程度が参加している。地区の改善について住民に理解を得るための方法として、地区会議を利用する方法はある。
- ・今、コミュニティによる地区改善についての会議を開いても年寄りばかりが集まる。若者に魅力のある場所があれば若者も参加すると思う。
- ・コミュニティのための施設の内容としては若者と子供の教育や文化的な内容が必要だと思う。施設さえあれば、自分たちで管理できるし、管理費用についてのお金を

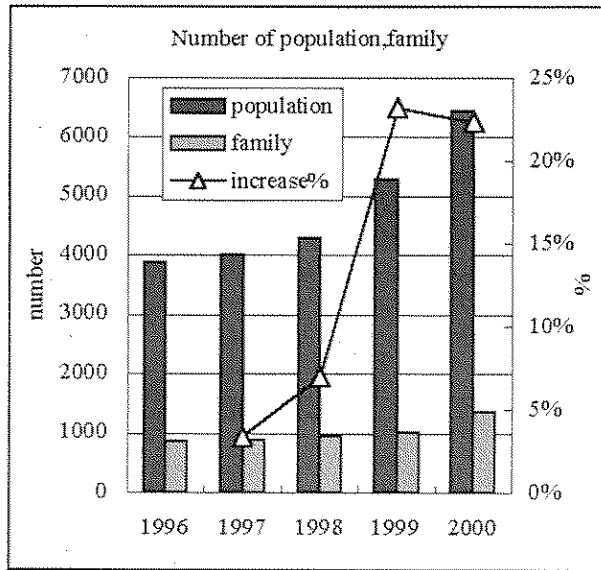


自分たちで工面することができると思う。問題は土地がなく、土地の許可を取るのに6ヶ月かかることである。

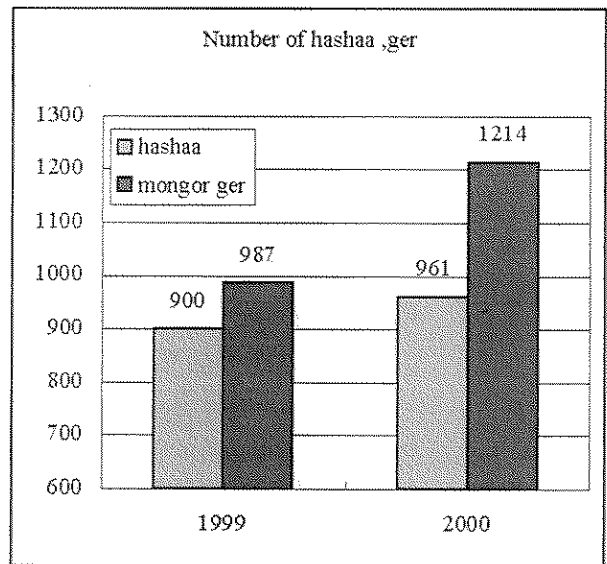
4-2-3. 地区の改善方法について

- ・地区中央の河川沿いの堤防がこわれている場所があり整備が必要。
- ・現在1つしか橋がなく1箇所の修繕、2箇所の橋を新設整備したい。
- ・東地区の中央道路の整備が必要。
- ・給水車が悪い、足りない。道路が悪く上水販売所に行けない。本来は2つの販売所ごとに1台の給水車が配置される必要がある。
- ・ゴミ処理の車が足りない。

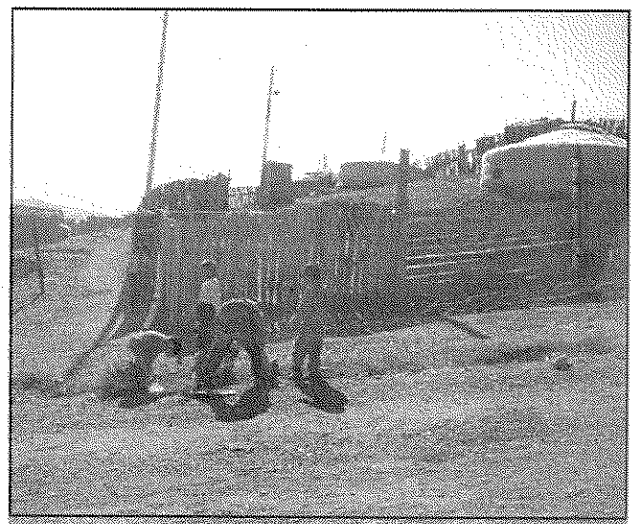
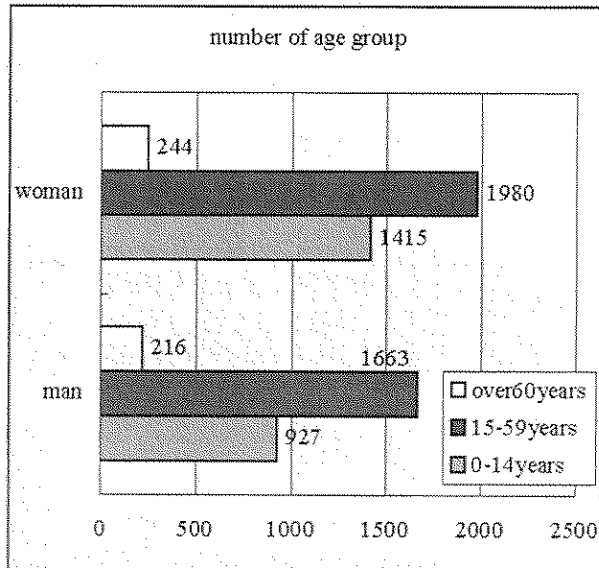
Graph. 2-3-1



Graph. 2-3-3



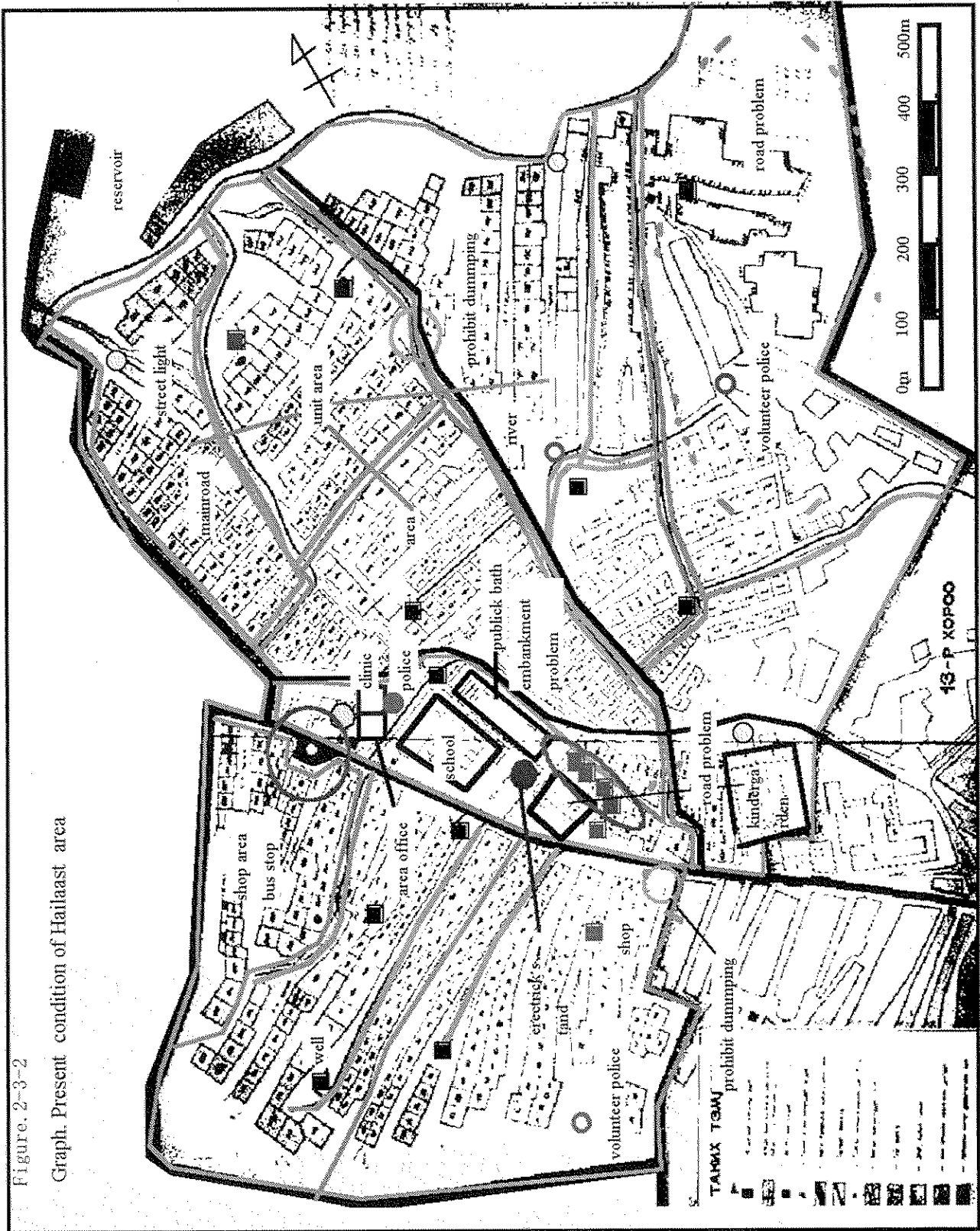
Graph. 2-3-2



Souse, Hairast 15area office

Figure. 2-3-2

Graph. Present condition of Hailaast area



4-3. ダンバダルジャー 15 地区管理者インタビュー調査

4-3-1. 管理の内容

■ 地区管理事務所

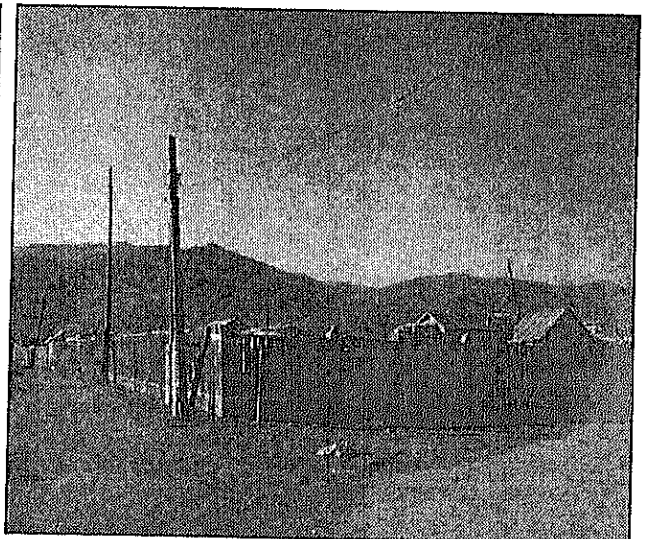
- ・ホローの予算を管理して業務を実施する。
- ・ホローにある店や会社などが法律に従って事業を行っているかどうかを確認する。
- ・困窮世帯や高齢者世帯への世話をする。
- ・国から定められた統計を提出する。
- ・法律を住民に説明して、法律上のトラブルが起らないようにする。
- ・火災や洪水を未然に防ぐ
- ・地区で集めている公共料金はゴミ処理費用 1500～2000 トゥグのみ。商店からは月に 3000～5000 トゥグ集める。
- ・家屋保険は地区でつくっており、どのようにお金を動かすか検討している。
- ・生命保険に入ることもできるが、入る人はいない。(地区の管理ではなく紹介)

■ 住区管理者 (各区 1 名あるいは 2 区で 1 名)

- ・人口、家畜の数、銃の数、車台数、障害者数、戦争経験者数等の統計
- ・ゴミの処理
- ・法律を住民に説明して、法律上のトラブルが起らないようにする。

■ 管理上の問題

- ・余暇を過ごすために必要な場所を提供したり、事業を行う予算がない。
- ・地区に必要な車がない。ゴミ処理車が必要。
- ・市内に住むためには大人一人 50000 トゥグ、子供 26000 トゥグ払う必要があるが、勝手に住む人がある。彼等を援助する資金が地区にはない。
- ・15 地区管理事務所 1974 年から修理しておらず老朽化している。戦争に行った方々から 1000 トゥグづつ寄付を貰い外壁を塗り直した。
- ・1375 世帯の内、400 世帯が月収 16000 トゥグ以下の困窮世帯、そのうち 118 世帯は 4500 トゥグ以下の生計が成り立たない世帯。
- ・ゴミ処理は近在の会社に頼んで車を出してもらっている。約 400 世帯から月 1500～2000 トゥグ地区で集めて、地区から一台一回当たり 35000～40000 トゥグ払っている。払えない世帯も多く、経費が不足する場合は市から補填してもらっている。



4-3-2. 地区の生活状況について

1) 都市インフラの整備状況

■ 上水の確保

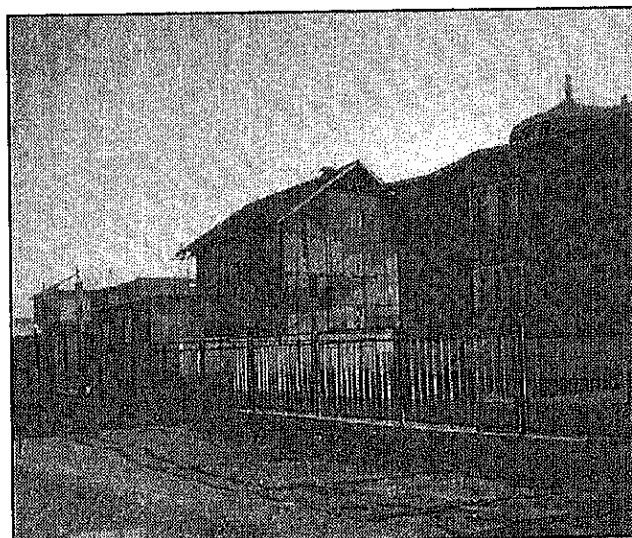
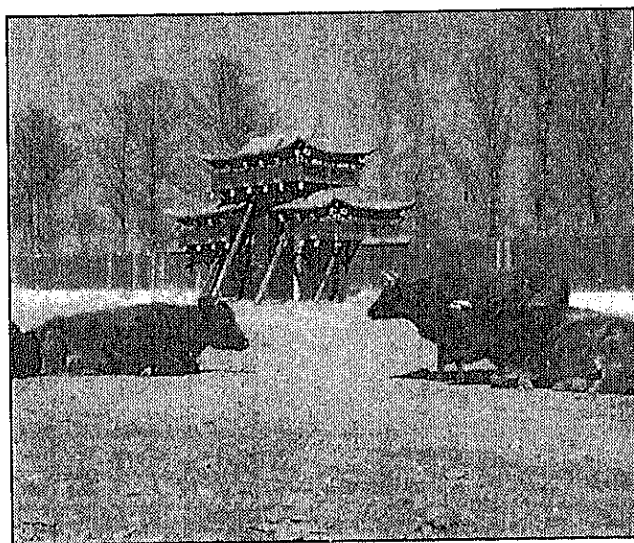
- ・ 地区内に井戸が一ヶ所あり、35mの地下から汲み上げている。水質は月に一度検査しており、とくに問題はない。直接販売しており、営業時間は午前8時から午後10時。
- ・ 上水販売所は5箇所。営業時間は午前10時から午後8時（休憩午後2時～4時）
- ・ 地区の西部はどこでも掘れば水がでるが、検査の上で飲料には適さないため、野菜づくりや洗濯に使われている。
- ・ 共同浴場は個人経営のものが1箇所で一時間800トウグで使える。

■ 道路、交通

- ・ 地区中央に東西に通る舗装道路に南北の未舗装道路がつないでいる。細街路を家屋が塞ぎ通行できなくなっている箇所も多い。
- ・ 車両台数は10年前5台程度であったが、現在200台になっている。年間30台程度増加している。
- ・ 交通事故 昨年度橋の上で2件、学校の近くで子供との接触が1件あった。
- ・ バス停は地区中央に1箇所、地区東端に1箇所あり、最も遠い場所からの距離は3kmはあり、徒歩で30分はかかる。
- ・ 街灯は南北のゴダムジ沿いにあったが、管理費用が払えないため廃止した。

■ 電気

- ・ 主要な電線は南北のゴダムジ沿い。地区内に3箇所の変電施設がある。
- ・ 全世帯に供給している。220ボルトの電圧はきているが夕食時など、多くの世帯が利用するため電圧が下がり電気器機が動かなくなることがある。増圧器をとりつけるか、食事の支度に木や石炭を利用している。地区内に電圧を高くする器機をとりつける方法もある。
- ・ 停電は月に2～3回程度。30分程度で復旧する。電気スタンドの修理が必要な時は8～12時間停電することもあるが、そのような場合は停電を事前に知らせるようにしている。
- ・ 電気料金はコントロールから各戸に徴集にくる。



2) 衛生的環境

■ ゴミ処理の状況

- ・地区内にゴミ収集所は設置していない。地区から近在の会社のトラック1台を借り上げて、各戸から月 1500 トゥグを貰って回ってもらっている。
- ・以前は地区から 5km の場所に市のゴミ捨て場があり、そこに捨てていたが、今は西に 35km 離れた市北西のゴミ処理場に持っていかねばならず、ガソリン代がかかるようになった。以前は 700 トゥグで処理できていたが今は 1500 トゥグかかっている。
- ・一日一台 30000 トゥグ× 25 ～ 28 日稼働 = 850,000 ≒ 500 世帯 × 1500 トゥグかかり、足りないお金は市に補填してもらう。
- ・地区内 800 世帯のうち、約 500 世帯がホローにゴミ処理の費用を支払っている。ゴミ処理の費用が払えない世帯にも回収にまわり、そのかわりに地区内の清掃をお願いしている。
- ・石炭灰は月に一度、その他のゴミと一緒に回収してもらう。
- ・ゴミ処理の車をホローで持つことができれば、もっと安くゴミを収集することができる。

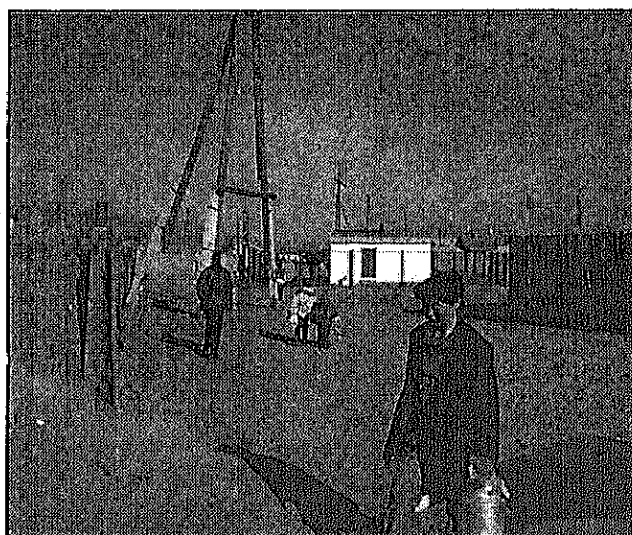
■ 環境の汚染

- ・冬期の煙りについては、西北から風が吹き抜けほとんど問題を感じない。
- ・不法廃棄の場所は大きなものが地区東部に一ヶ所あったが、今はない。

3) 保健福祉環境

■ 医療環境

- ・公営の診療所と私営の病院がひとつづつある。昨年度公営の診療所ができた。
- ・公営の診療所は入院設備がなく、検査設備も整っておらず、専門的な治療はできない。対応できない疾病は市内の病院にまわす。4人の医者がおり、午前8時から午後9時までは往診してくれる。車はなく、歩きでの往診。
- ・個人病院は60歳以上の高齢者の患者が多く、1日1500トゥグで入院できる。
- ・救急の状況には公営診療所の営業時間内であれば往診に来てもらえる。午後9時以降であれば、市内から救急車を呼ぶ。



■生活が困難な児童、世帯

- ・現在両親のいない17人の児童を親戚などにお願いして置いてもらっている。
- ・今年、6人の子供の面倒をみてもらうために、200,000～300,000トウグの2つの家を寄贈した。同様に2年毎に家をあげている。寄贈するのは片親世帯であったり、面倒をみている親戚の世帯であったりと様々である。
- ・火災で家をなくしたり、いなかから出てきた人が増えていたり、困窮世帯が増加しているなどの理由から保育の十分でない子供の数は増えている。
- ・私立の保育園は地区内にない。現在の子供の数からみていまのところ必要はない。

4) 安全な環境

■洪水、災害

- ・20年前に大きな洪水があり、地区中心の家屋まで浸水した。
- ・2本の河川沿い、3本の大きな雨水溝があり、洪水の危険はある。本来は河川から50m離れて家屋が位置することがきめられているが、今は場所によっては10mに満たない。
- ・3年前から禁止区域にハシヤーができはじめた。禁止しても勝手に建ててしまう状況である。当初は取り壊ししていたが、家がたったあとでは、立ち退きを要求するお金をもっていないため、黙認している。河川そばの堤防を高くして対応している。
- ・2年前に山火事があった。一年間に2～3件の火事が起っている。昨年度、飛び火により3世帯がまとめて火事になった。住宅火事の原因は電気の不始末、子供のいたずら、石炭の火などのほか雷などの天災や、電線がふれあってショートした火花が家に燃え移ることもある。
- ・消防車は市内から連絡して20～30分でくるが、木造のため、燃えてしまってから到着も多い。来年度1月より地区内に消防署ができる予定。
- ・川や井戸から水を取り、近所の住民で火を消すこともある。

■犯罪

- ・一年間に発生する犯罪は40～50件である。
- ・事故や殺人もあるが、どろぼう、けんか、酔っぱらいが主である。犯罪の80%はどろぼうで、そのうち70%が家畜どろぼうである。よっぱらいは日に3～5人は警察に連れていかれる。
- ・警察はホローの側で24時間対応している。そのほか住民にお願いして、月6000トウグで各地区に市民警察を置いている。

5) 利便性

■石炭の確保

- ・石炭の販売所はなく、7ボーダルまでおりるか、東端の商店で少量づつ購入する。
- ・月の収入が18000トウグ以下の困窮世帯は400世帯、うち118世帯が特に収入が低い。石炭が買えなくとも、地区内に家畜が多く糞や木材を燃やして暖をとっている。

■商業施設について

- ・商業施設は地区中心に数件の商店があるほか、地区内の各地に小売店舗がある。全て一般食料品、生鮮食品の店であり、雑貨はおいていない。

6) 教育環境

- ・小学校1 36 クラス 生徒数 2300 人 (15 地区、16 地区より)、60 人の先生
- ・地区子供数3000 人のうち1200 人が地区の小学校に通う。市内の学校に通う子供も多い。
- ・幼稚園1 6 クラス 園児数 250 人

7) 公園レクリエーション

- ・子供の遊び場となる広場がセルバ川沿いに2箇所。
- ・近郊のボグトザウホ山に1箇所。8人の生仏の1人がここに住んでいた。5月の初頭には祭りがひらかれる。

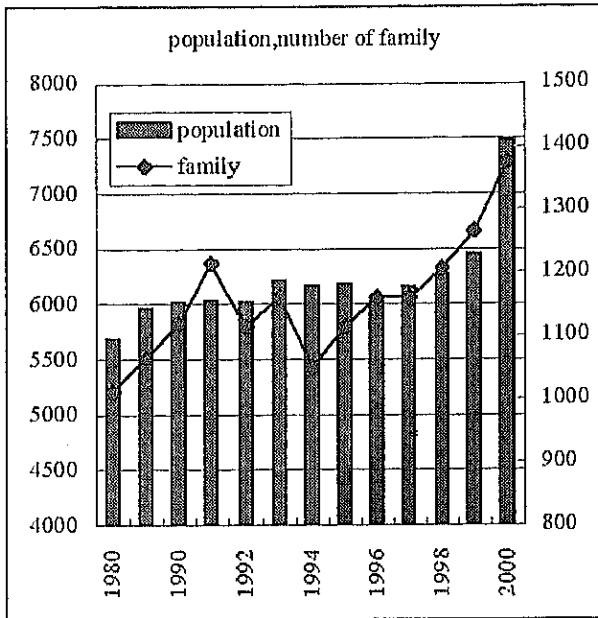
8) コミュニティ

- ・コミュニティについて話し合う、情報交換や会議のできる場所があるとよい。
- ・センター施設があればその管理は地区でできると思う。
- ・200人くらいの人が集れるホールがあれば、余暇をすごしたり、地区のことを話し合うことができると思う。
- ・地区の改善や共有施設の管理に必要なお金は理解してもらえらるであろうし、十分に話しをして理解してもらおうようにしたい。
- ・地区内の会議は年に2回、区の管理者と地区の仕事の内容について話しあう。住民も出席してよいが、いままでは区の管理者のみの参加であった。
- ・今回の調査の件について地区住民で話し合う機会をつくりたいと考えている。

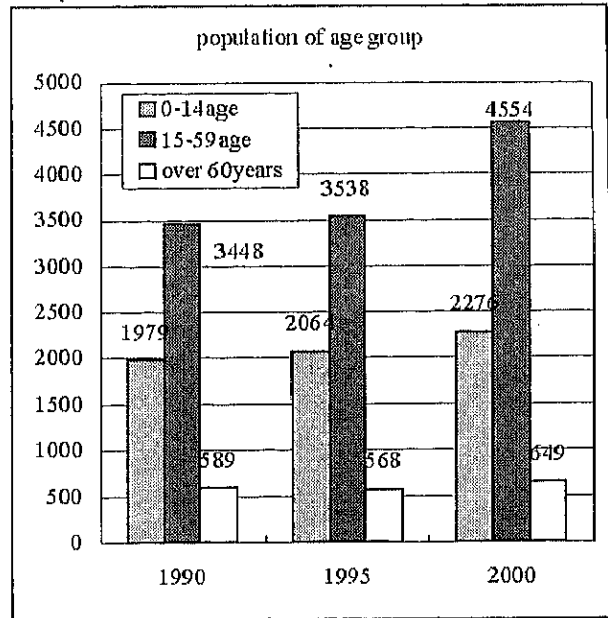
4-3-3. 地区の改善方法について

- ・南北の道路を整備する。地区内の細街路を整備する。
- ・地区最北にバス停留所を設置する。
- ・共同浴場を地区北側に設置する。
- ・公営病院の規模を大きくする。
- ・ゴミ収集の車を地区で持つことができれば安くゴミを収集することができる。
- ・地区管理施設を整備する。
- ・2年後に地区東側にザハができる予定。
- ・幼稚園そば、北側地区内に公園を3箇所つくりたい。

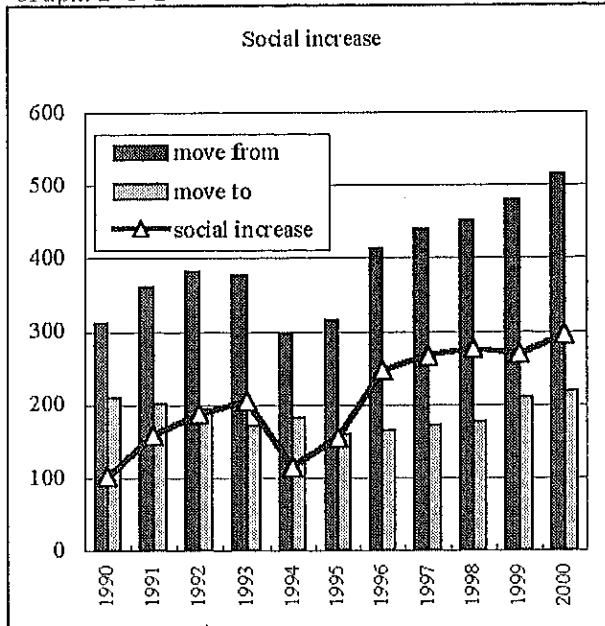
Graph. 2-3-1



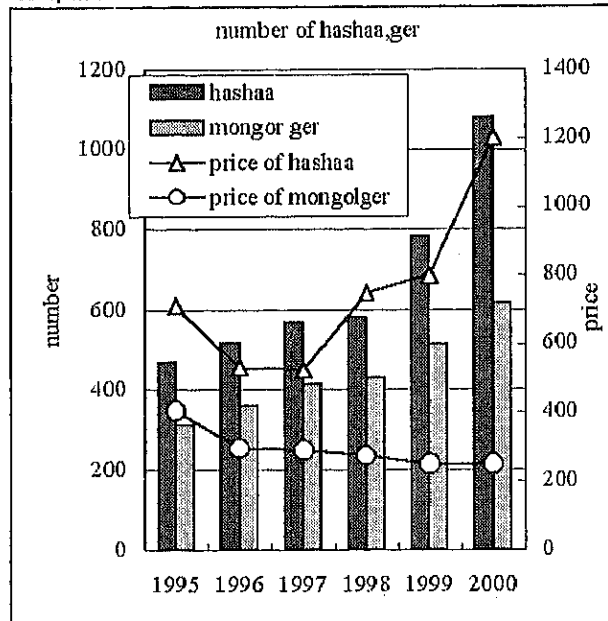
Graph. 2-3-3



Graph. 2-3-2



Graph. 2-3-4



Data
Danbadarjaa 15
area

souse Danbadarjaa
15 area office

Graph. 2-3-5 Nmbur % of students, kindergarden

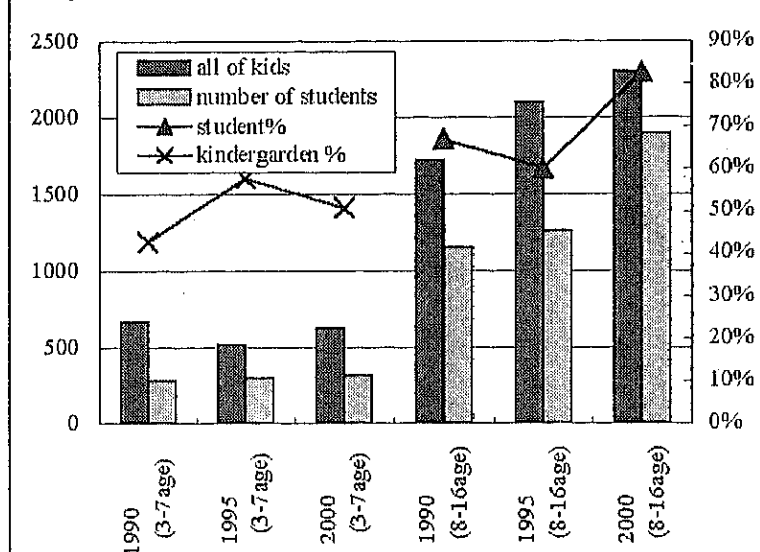


Figure. 2-3-3

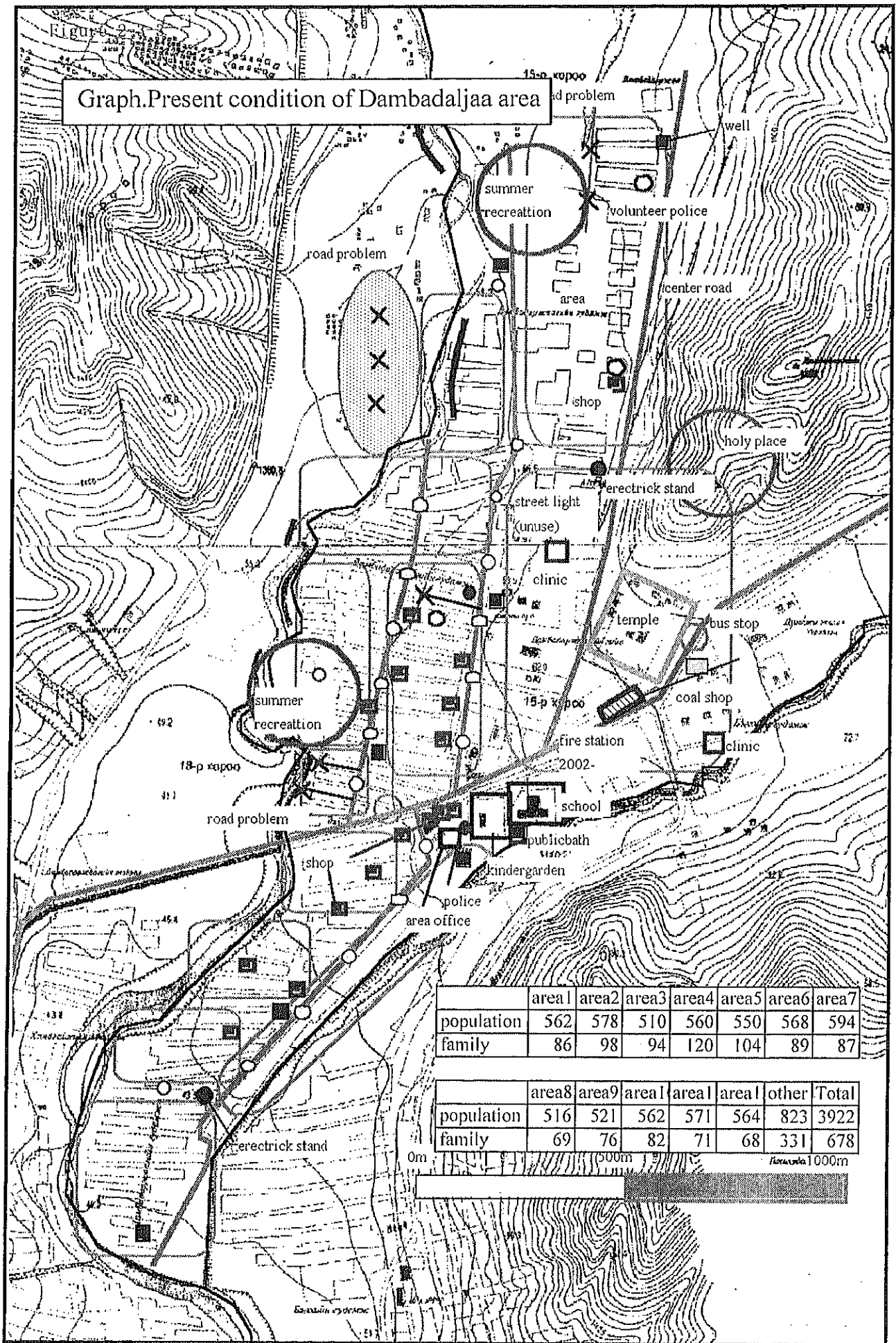
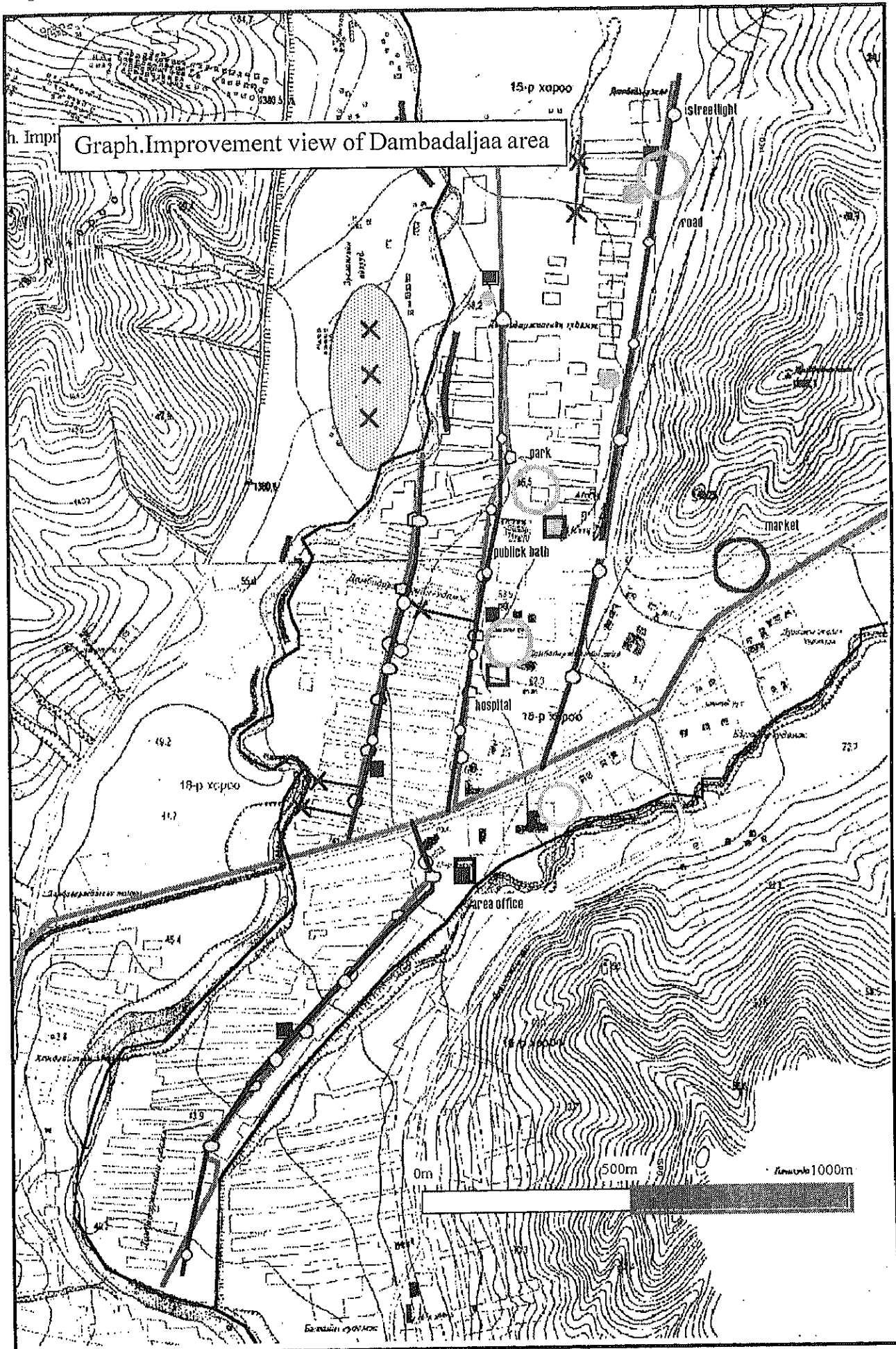


Figure. 2-3-4



第五章 ゲル地域住民への生活状況アンケート調査
ト調査 第二次アンケート調査)

5-1. 敷地状況調査

5-1-1. 地形、位置

■ 1. 地形

自宅敷地周囲の地形を、平地、緩斜面地、斜面地の区分で尋ねたところ、ガンダン地区、ダンバダルジャー地区では平地が87%、83%をしめるが、ハイラスト地区では緩斜面地49%、斜面地30%と、79%が斜面地の回答となった。

■ 2. 涸川までの距離

ゲル地区内には、雨水が流れる自然にできた溝がいくつも入っている。ここではそのような雨水溝 - 涸川までの距離を設問にした。

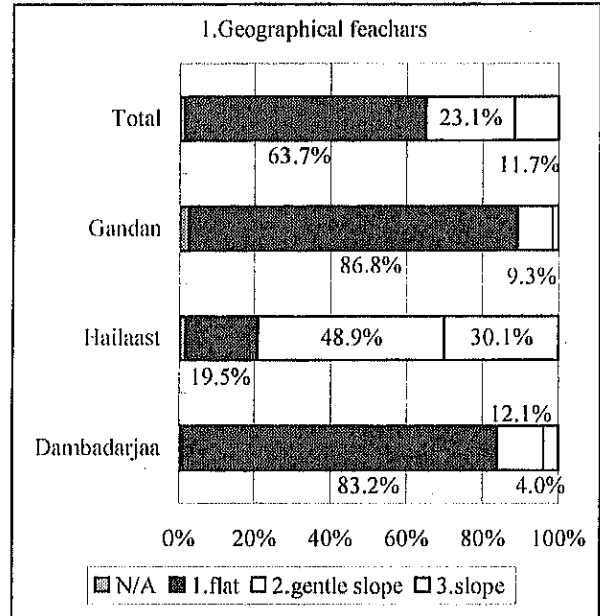
ガンダン地区では「100 m以上」78%、「50-100 m」10%と90%が十分に涸川からの距離がとられている。ダンバダルジャー地区では50 m以内が23%みられ、うち9%は10 m以内と近い。ハイラスト地区では50 m以内が48%と半数をしめ、「10 m以内」の回答が38%ともっとも回答が多く、斜面の多い土地条件を反映している。

5-1-2. 交通、自動車

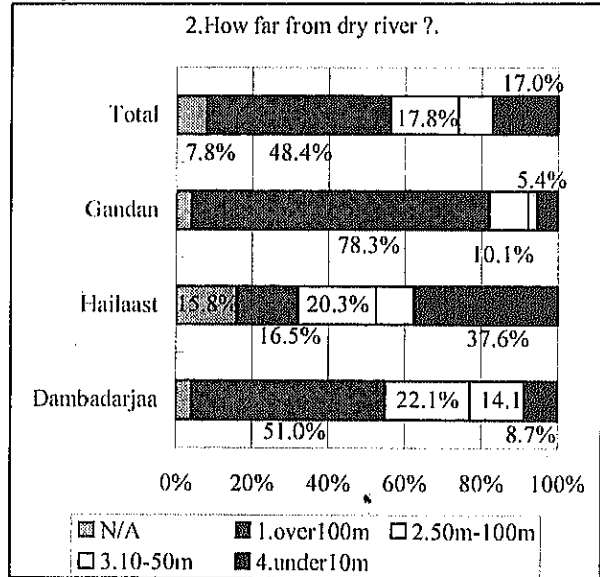
■ バス停までの距離

ガンダン地区では「5-10分」が32%、「5分以内」が61%と93%が10分以内にバス停に着くことができる。ハイラスト地区では10分以内が79%、「10-20分」が17%となる。ダンバダルジャー地区では64%が10分以内だが、「10-20分」22%、「20分以上」13%である。バス停が少なく地区面積の大きいダンバダルジャーがもっとも公共交通を利用しにくい。

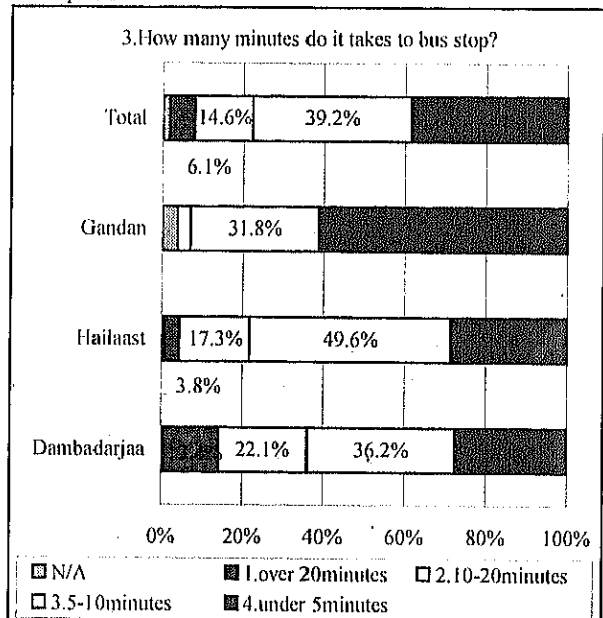
Graph. 2-5-1



Graph. 2-5-2



Graph. 2-5-3



■ 自宅前の道路幅員

車が双方向に通ることのできる「6m以上」がガンダン地区64%、ハイラスト地区57%、ダンバダルジャー地区42%、車がすれちがえる「3m」、「3-6m」はガンダン27%、ハイラスト23%、ダンバダルジャー49%となり、ダンバダルジャー地区の幅員が他地区に比べ狭くでている。車通行の困難な2m以下も各地区数%の回答がみられた。

■ 自宅前までの車通行について

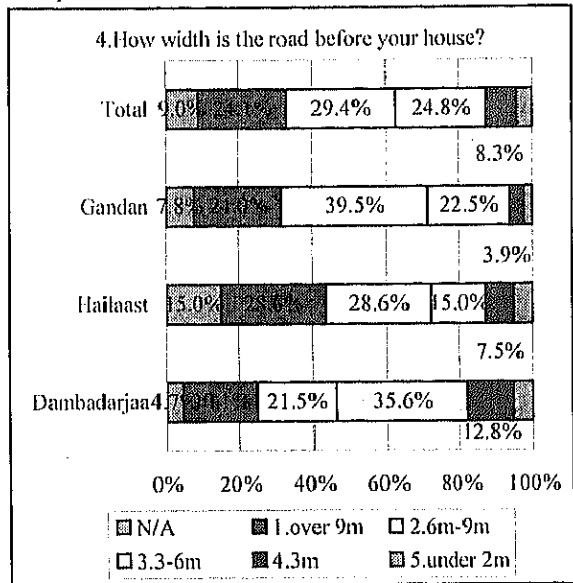
自宅まで車が来ることができすかという設問に対し、「いいえ」という回答がいずれの地区においても10%程度みられた。普段の不便のみでなく、災害や急病などでの対応の困難を考える必要がある。

■ 自家用車の有無

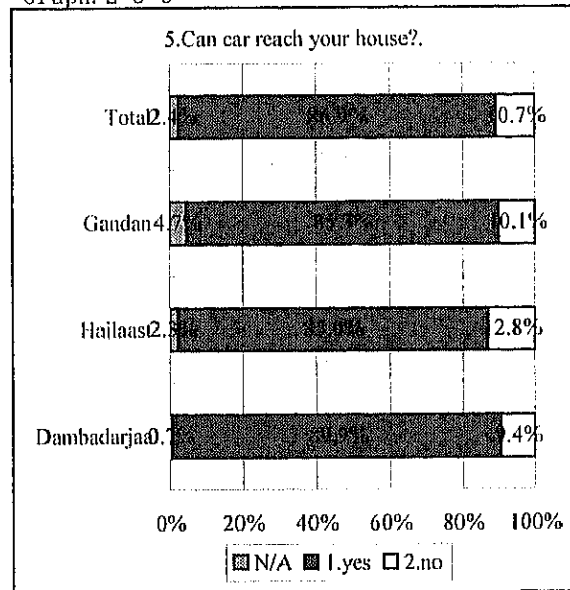
自家用車の有無について尋ねたところ、「所有している」が20%とおおむね10戸に2台程度の普及となっている。

ガンダン地区23%、ハイラスト地区19%、ダンバダルジャー地区17%となり、この順に所有率が高くなっている。

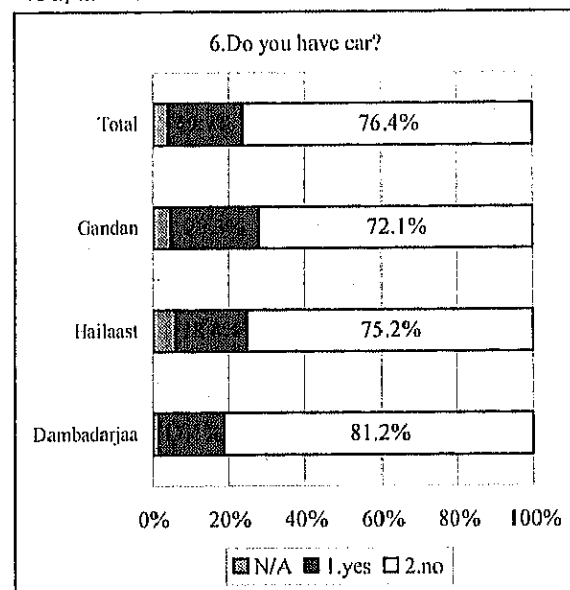
Graph. 2-5-4



Graph. 2-5-5

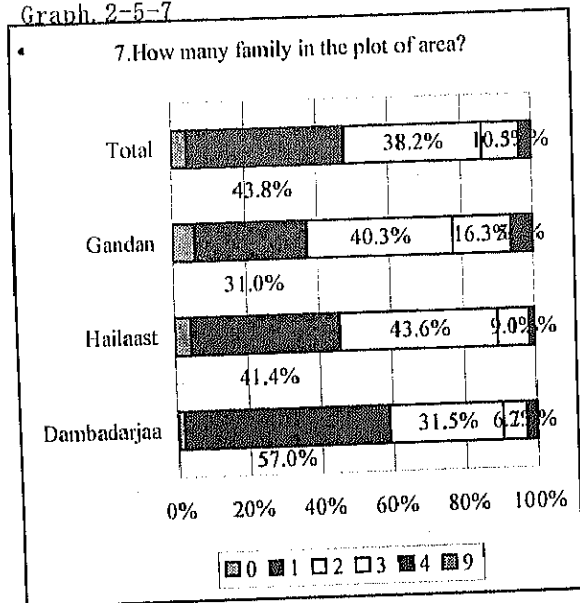


Graph. 2-5-6



5-1-3. 敷地内の概況

Graph. 2-5-7



■ 7. 同一敷地内の世帯数

全体では「一組」44%、「二組」38%、「三組」11%で93%を占める。「一組」の回答がガンダン地区31%、ハイラスト地区41%、ダンバダルジャー地区57%となり、この順に敷地内の家族数が少なく、市街地内のガンダン地区で同一敷地内の世帯数が多くなっている。

■ 7-2 同一敷地内の世帯との関係

ここでは同一敷地内に他の世帯がない世帯もあることから、無回答を除いて集計した。

無回答は前設問で一世帯のみと回答した世帯の割合とほぼ同程度である。

全体では82%が「親戚関係」、17%が賃借関係を示した。地区別ではハイラスト地区88%、ダンバダルジャー地区81%、ガンダン地区77%の順に親戚関係と住む割合が多い。

■ 8. 敷地面積

全体では「無回答」15%を除くと、「600㎡以上」29%、「300-600㎡」28%、「100㎡以下」23%で回答を3分している。

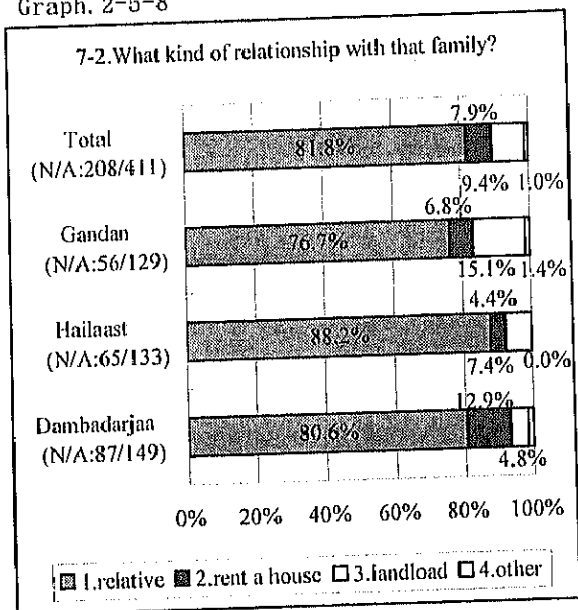
地区別ではガンダン地区で「無回答」11%が少なく、「100㎡以下」23%が多い。ハイラスト地区で「300-600㎡」35%、ダンバダルジャー地区で「600㎡以上」8%の回答が多いことに特徴がみられた。

■ 9. 敷地内の建物の種類と数（複数回答）

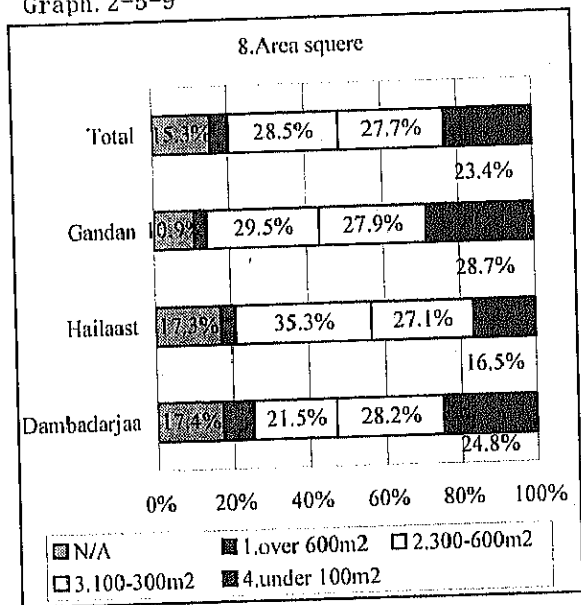
全体でそれぞれの建物のある、ないについては「冬住宅」がある世帯が83%、「モンゴルゲル」が45%、「夏住宅」が26%を占めた。「良好な個人住宅」は4%である。全世帯の8割が冬住宅をもち、半数がモンゴルゲル、4分の1が夏住宅を敷地内に持っている。ハイラスト地区、ガンダン地区で「冬住宅」が90%近くと多く、モンゴルゲルが40%程度と少ない。ガンダン地区では冬住宅が71%と少なく、モンゴルゲルが63%と多い。またダンバダルジャーで夏住宅の比率が高いことに特徴がみられる。

敷地内の部屋の数「無回答」を除くと1部屋23%、2部屋45%、3部屋19%で87%を占める。ガンダン地区では住宅所有割合が低く、回答が少ないが、部屋数の割合はおおむね同程度の割合を示している。

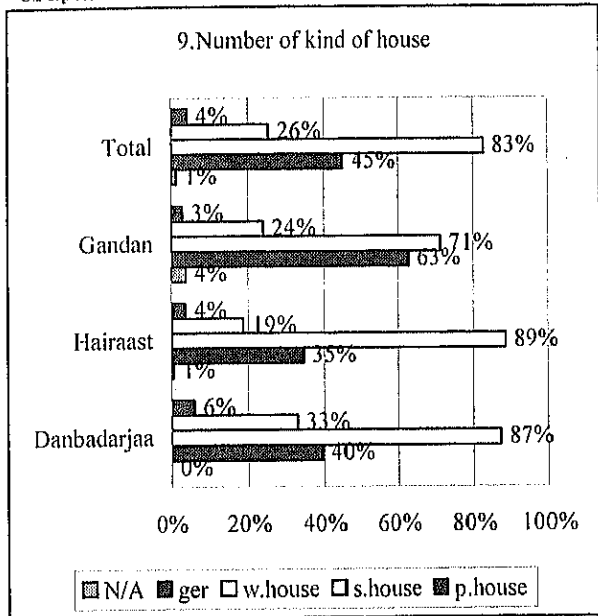
Graph. 2-5-8



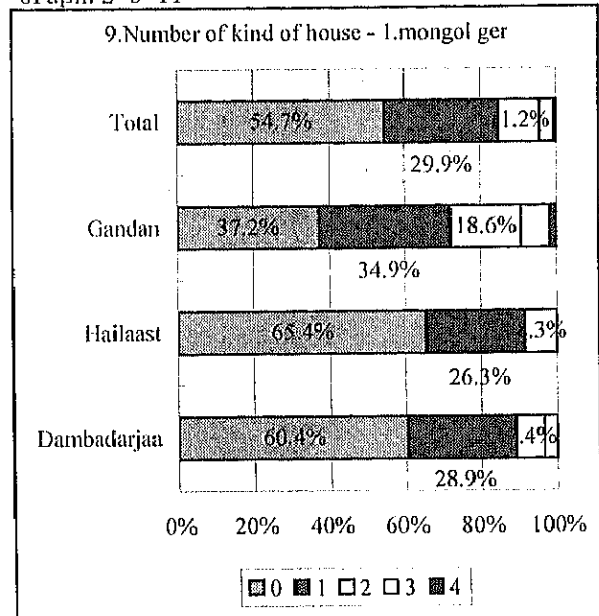
Graph. 2-5-9



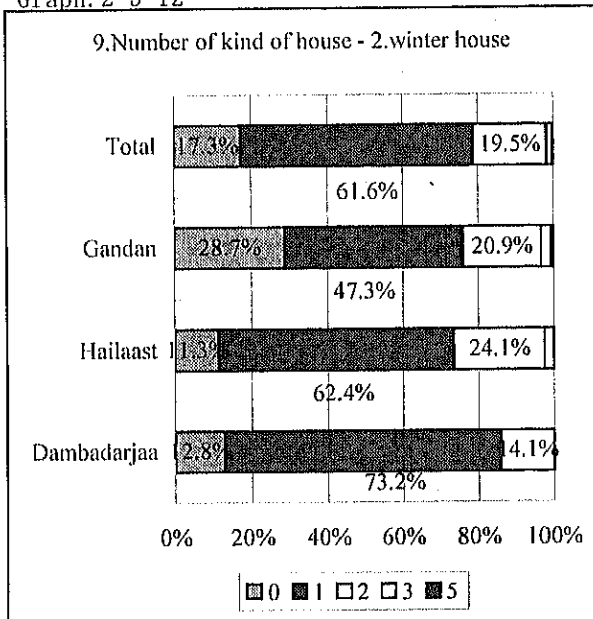
Graph. 2-5-10



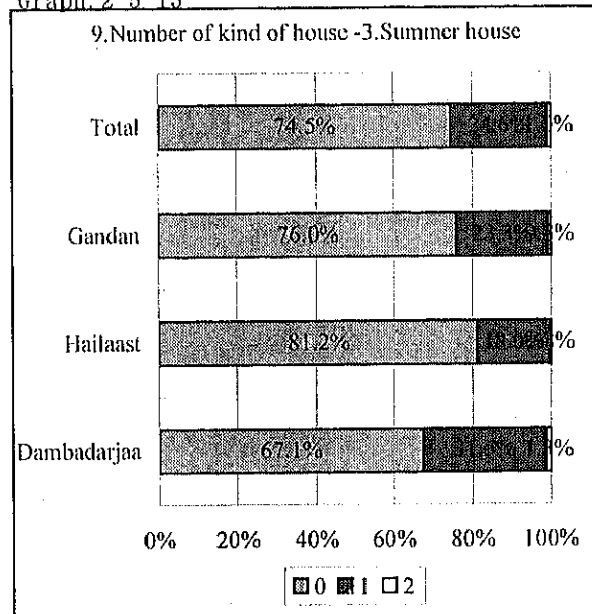
Graph. 2-5-11



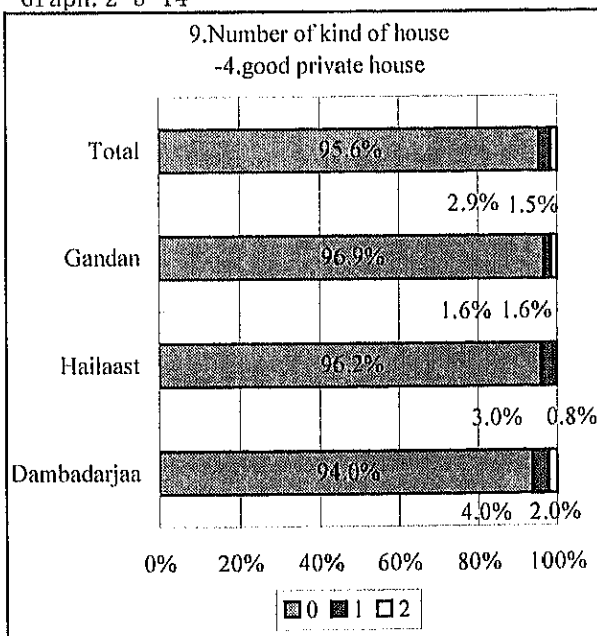
Graph. 2-5-12



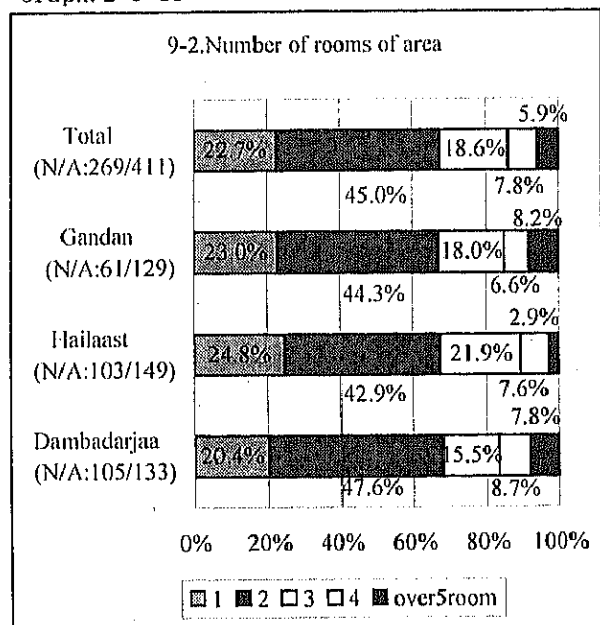
Graph. 2-5-13



Graph. 2-5-14



Graph. 2-5-15



■ 10. 住宅の材料

モンゴルゲルのみの世帯もあるため、無回答を除いて集計した。全体では「木造モルタル」74%、「木造」36%となり、冬住宅、夏住宅の所有割合と同様の傾向を示す。それ以外の「レンガ造り」、「その他」は5%、3%と低い。

地区別にみるとハイラスト地区で「木造モルタル」が87%と高く夏住宅の材料になる「木造」が少ない。住宅の少ないガンダン地区で「無回答」の割合が多いこと、ダンバダルジャー地区、ガンダン地区で「木造」が多いことに特長がみられる。

■ 11. トイレ汚物の清掃について

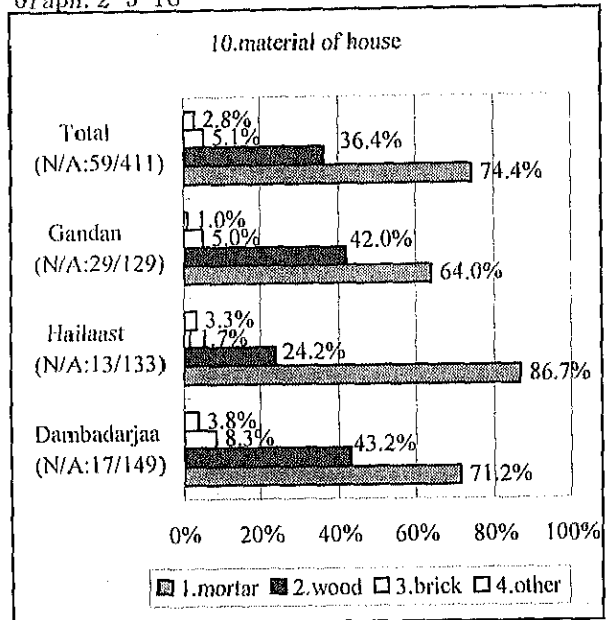
全体では「新たに作り直す」35%がもっとも多く、「冬場凍った汚物をゴミとして処理する」27%、「その他」17%、「バキュームカーで汲み取る」10%となった。27%が無回答である。その他では薬を使って清掃する、穴が深いので何もしない、といった回答がみられた。無回答は特に汚物の清掃をしなくとも土壌浸透させているという回答が含まれると考えられる。

地区別ではガンダン地区で、「冬場の処理」38%、「無回答」34%が多い。ハイラスト地区では「新たに作り直す」44%が多い。ダンバダルジャー地区では「バキュームカーで処理する」16%が多く、「無回答」20%が少ないことに特徴がみられる。

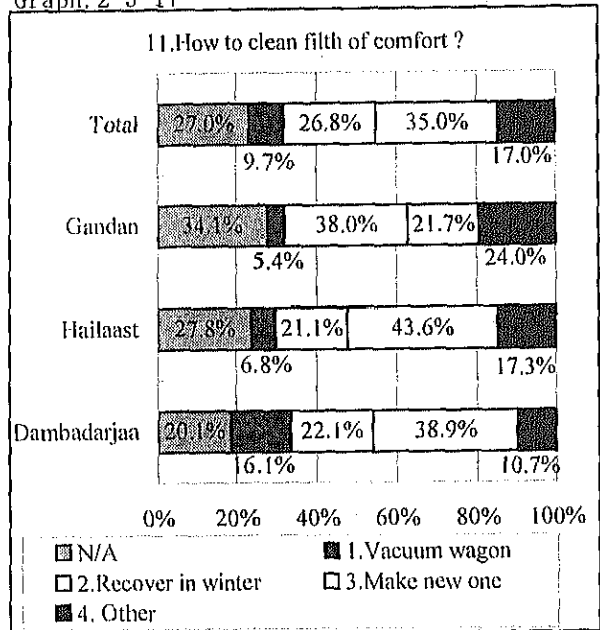
■ 12. 敷地内の畑の有無と農作物

敷地内の畑はダンバダルジャー地区で畑がある回答が42%、ハイラスト地区で24%、ガンダン地区で5%と、地区によりかなりの差がみられる。

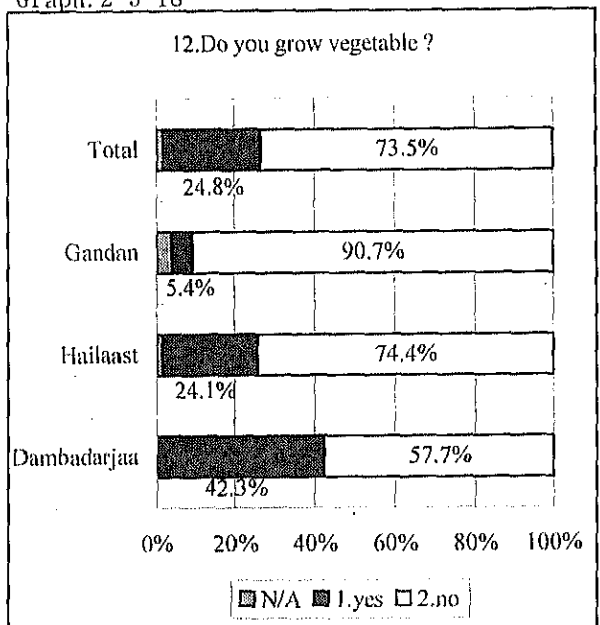
Graph. 2-5-16



Graph. 2-5-17



Graph. 2-5-18



作物の種類は、回答のあった89人のうちで、じゃがいも(91%)、玉ねぎ(62%)、にんじん(53%)、キャベツ(36%)、その他(17%)となった。ダンバダルジャー地区では畑をつくっている家が多く、回答が分散した。ハイラスト地区では「その他」の作物も回答を集めた。

■ 13. 飼っている動物の有無

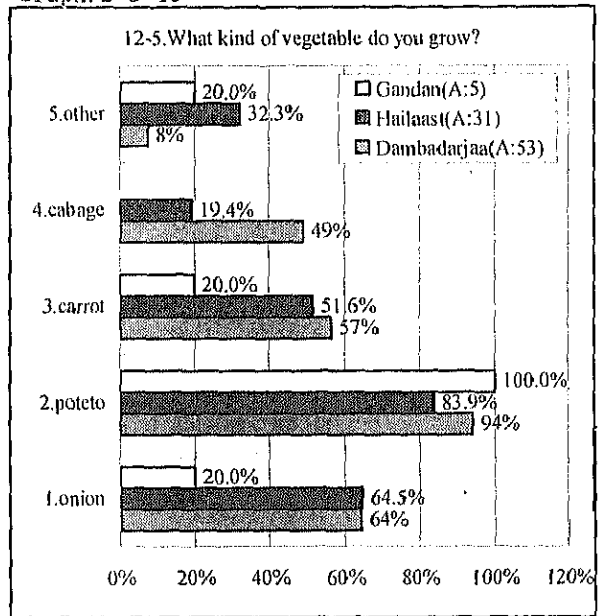
全体で66%が動物を飼っており、どの地区においても60%以上の回答を示した。飼っている動物は「犬」がほぼ全体を占めており、「猫」が数%を示した。その他の動物では「牛」、「鶏」が数件みられた。

5-1-4. 電気、電話の利用について

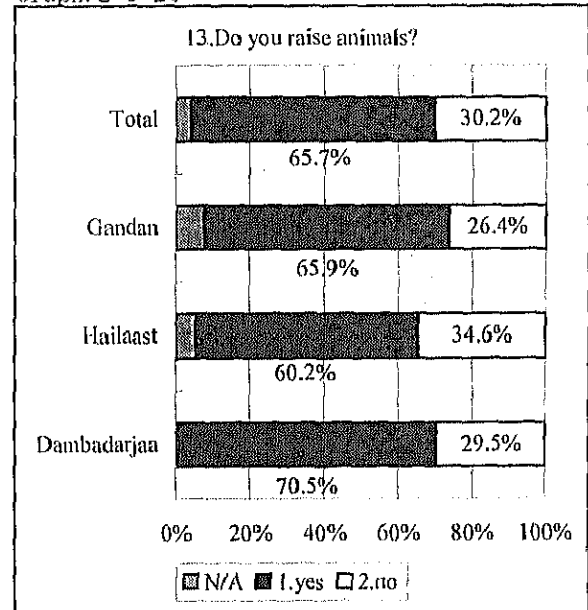
■ 14. 電気の利用について

電気についてはほぼ全体が利用しており、使えない状況の世帯は全体の411世帯中で5世帯であった。

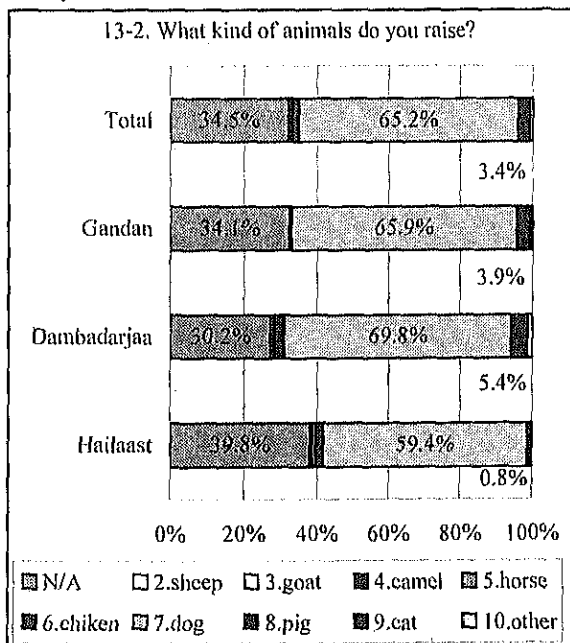
Graph. 2-5-19



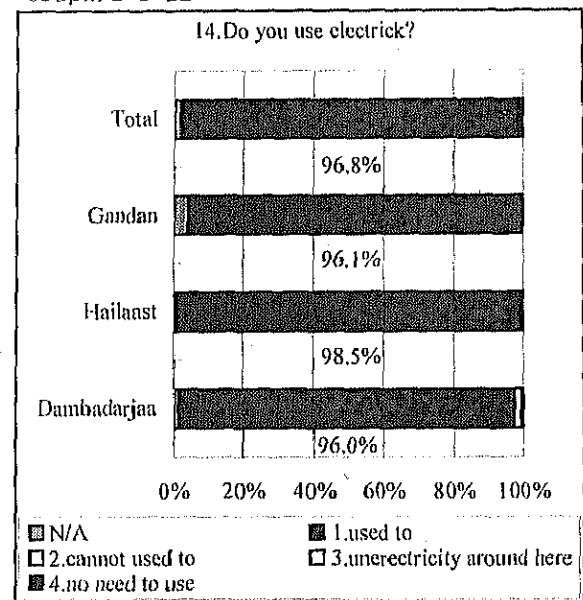
Graph. 2-5-20



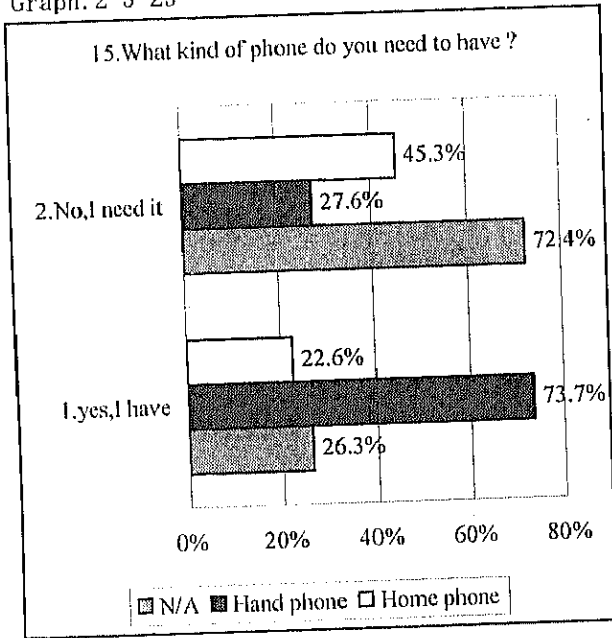
Graph. 2-5-21



Graph. 2-5-22

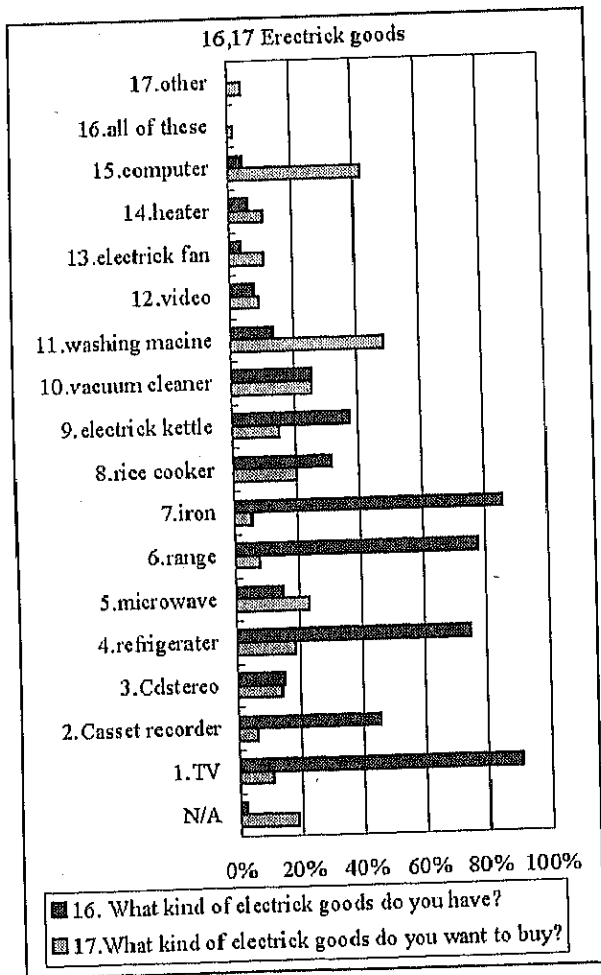


Graph. 2-5-23



■ 16, 17. 電化製品

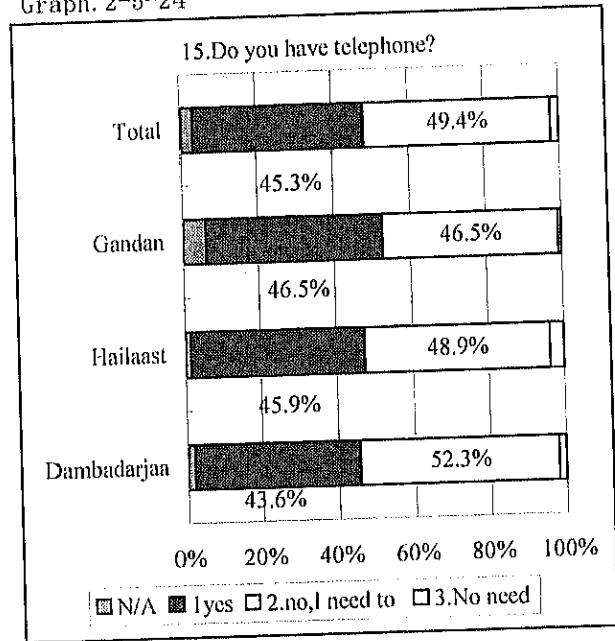
現在家にある電化製品と今後ほしい電化製品を尋ねたところ、現在家にある電化製品は



■ 15. 電話の有無

電話は全体で45%が所有しており、地区別にもほぼ同様の所有割合を示している。現在電話を所有していない世帯はほぼ全体が今後電話を所有したい意向を示している。所有している電話の種類は「携帯電話」74%、「家の電話」23%となり、携帯電話の所有が主となっている。今後所有したい電話は、どちらでもかまわないという意向からか「無回答」72%が多いが、「家の電話」45%、「携帯電話」28%と現在の所有と逆転しており、家の電話工事が難しい現状を反映している。

Graph. 2-5-24



「TV」91%、「アイロン」86%、「電気コンロ」78%、「冷蔵庫」75%の回答が高く、「カセットレコーダー」46%がこれに続く。今後ほしい電化製品として、「洗濯機」(49%)、「コンピューター」(42%)の回答が多い。ゲル地区には下水設備がなく、「洗濯機」の利用は、土壌汚染を促進するが、現在すでに14%の所有率となっており、今後欲しい電化製品の第一位にあげられていることに注目したい。

電化製品の一人あたりの回答数をみると、全体では5.4で、平均して一世帯当たり5.4個程度の電化製品を持っているといえる。地区別の回答数をみると、ガンダン地区5.8、ハイラスト地区5.3、ダンバダルジャー地区5.1の順に回答が多かった。